



Git 入門

環境構築編

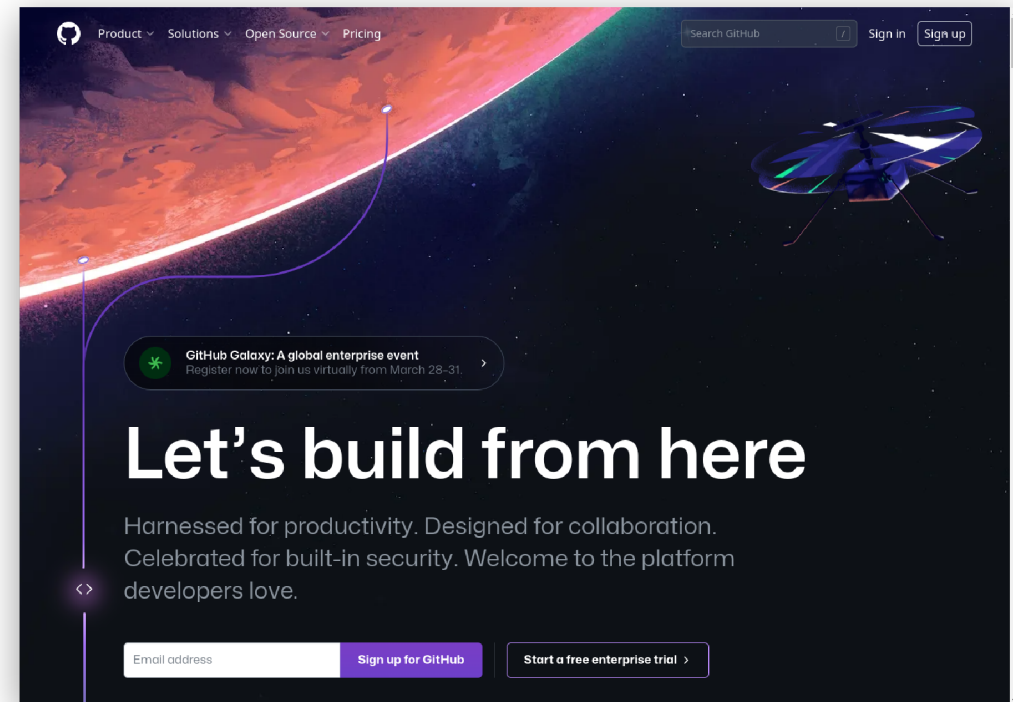
- 開発・作業で Git を使うための環境を構築するための説明
- **Windows での構築（含 WSL）がターゲット**
 - Macintosh なら Homebrew で Git を入れると良さそう
 - Linux なら一般的には適当なパッケージマネージャで入れるだけ
- そもそも Git を利用したホスティングサービスは複数存在
 - GitHub
 - GitLab
 - Bitbucket etc ...
 - （余談）Onedrive や Google Drive にも構築できる
- 今回は **GitHub** の利用に絞って説明

GitHubへの登録

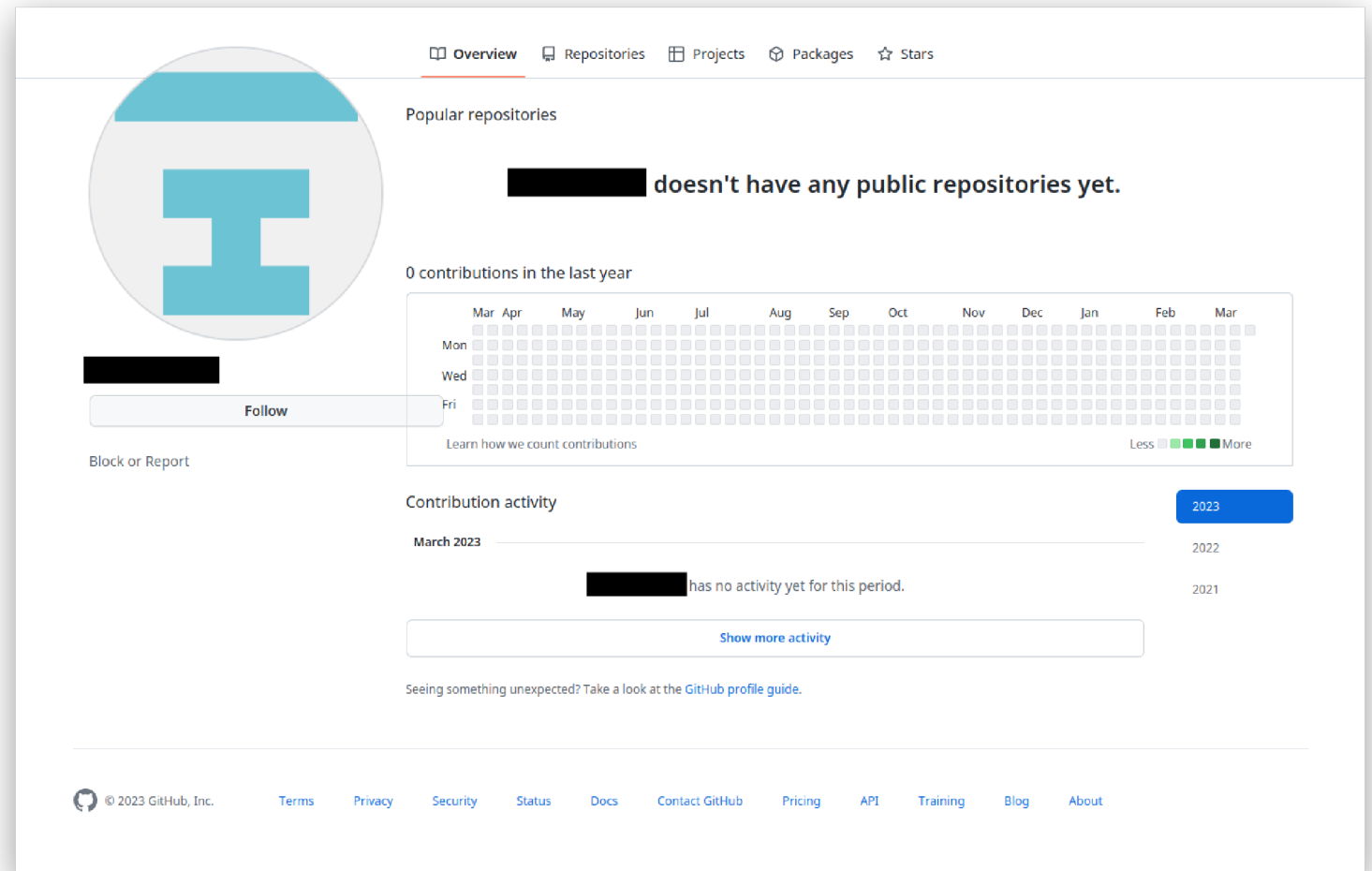
- ユーザ登録

- GitHub のホームページ
(<https://github.com/>)から「**Sign Up**」をクリックして登録。

- 流れに沿って登録すれば良い
- 基本的に英語 only だが、そう難しくはない
- **username** はあとから変更もできるが、かなり面倒くさいことになり得るので、後悔しない名前をびしっと決めておくことを推奨
- 途中で料金プランについて聞かれるが、**free（無料）プラン**で十分
 - 今後 **pro（有料）プラン**を使いたくなったら、学生証の写真をアップロードすると無料になるのでお得かも



- 登録完了
 - 伝説はここから始まる



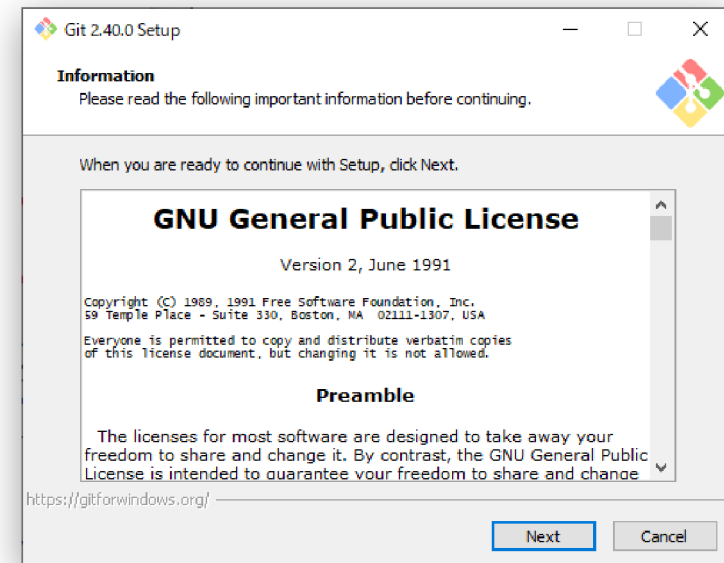
Git を使える環境の導入

- WindowsでのGitの導入を紹介
 - 今回は
 1. Windows ネイティブに入れる
 2. Windows Subsystem for Linux (WSL) に入れる以上 2 パターンの両方について扱う

- 「**Git for Windows**」を紹介
 - CUI & GUI で Git を扱える
 - 公式サイト (<https://gitforwindows.org>) からダウンロードしてインストール
 - 次のページからインストール手順の一例を紹介
 - あくまで一例
 - 今回はスライド作成時点で最新のバージョン **v2.40.0** を使用
 - バージョンごとに細かな箇所が変わるので注意

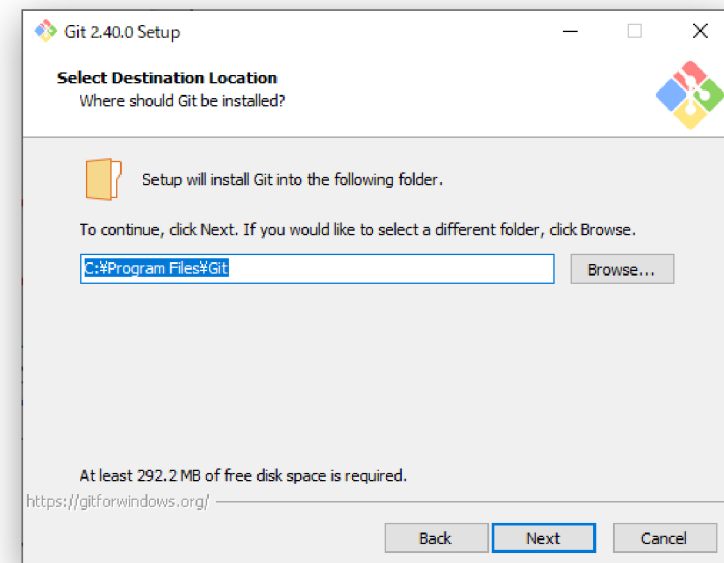


1. 規約に同意する



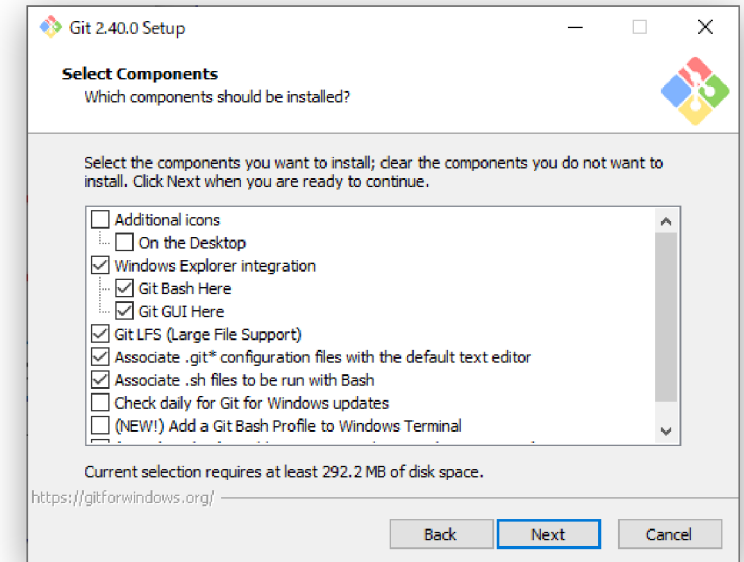
2. インストール先の選択

- デフォルトのままでOK



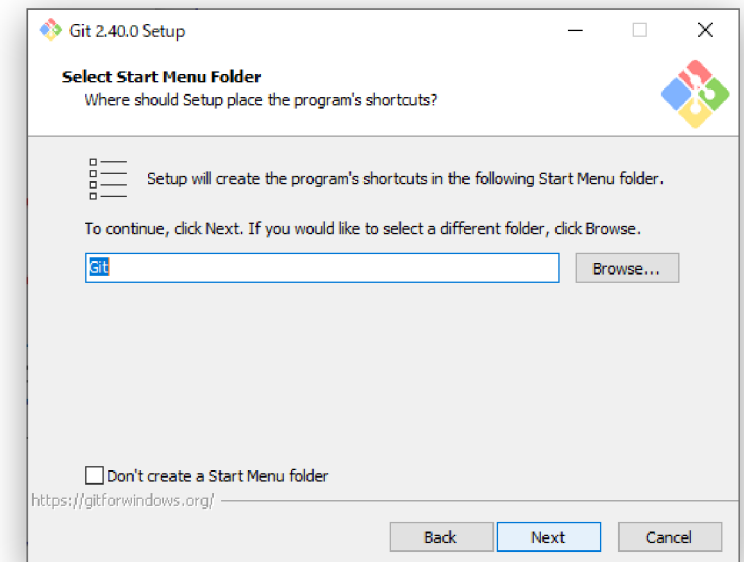
3. コンポーネントの選択

- ■ 「Git Bash Here」
 - 「Git GUI Here」
- にチェックを入れることを推奨



4. スタートメニューの設定

- デフォルトのままでOK

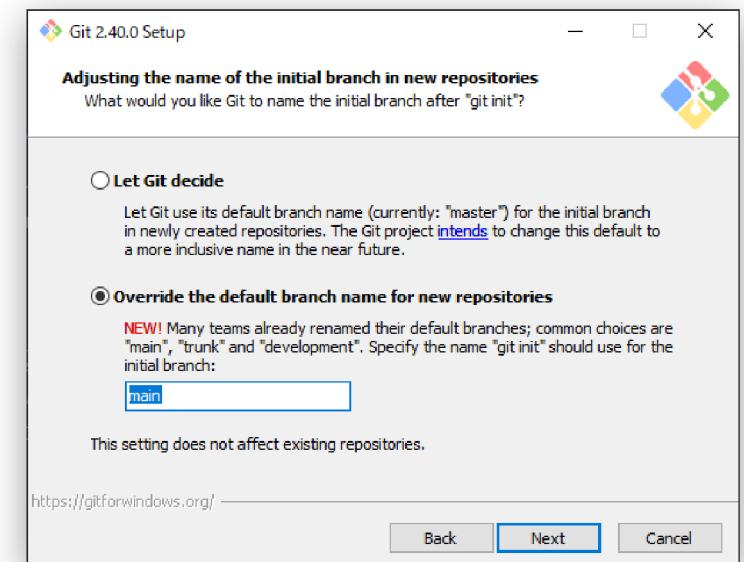
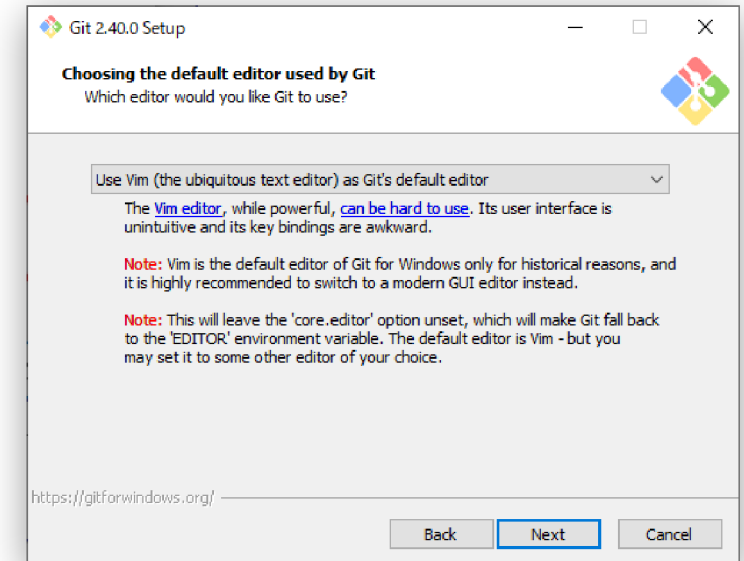


5. テキストエディタの選択

- コミット時などに使うエディタの選択
 - 「Vim」 または 「Visual Studio Code」 を推奨

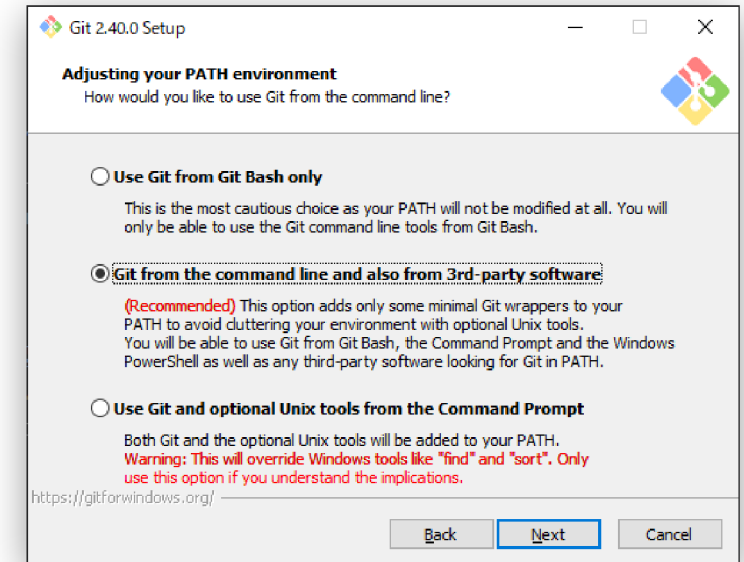
6. 新規リポジトリの既定ブランチ名の設定

- GitHubの流儀に従うことを考えて、「Override」にチェックし、「main」と入力



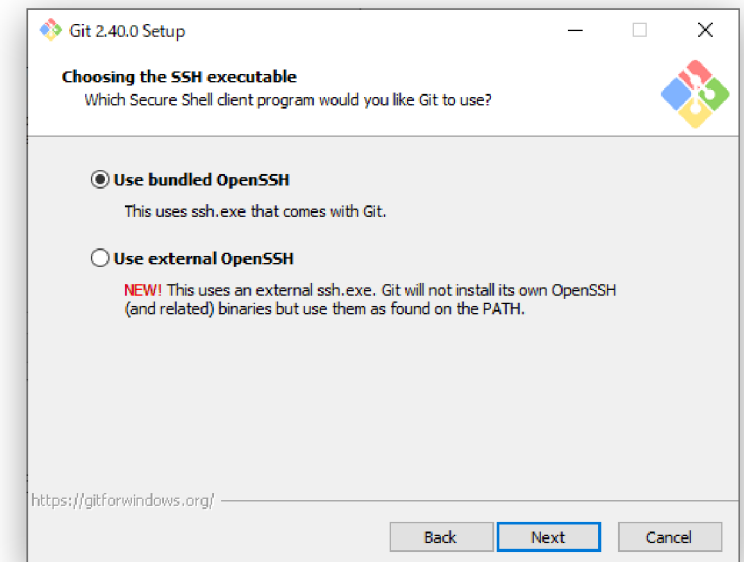
7. Gitの環境変数の設定

- デフォルトの「……also from 3rd-party software」にチェック



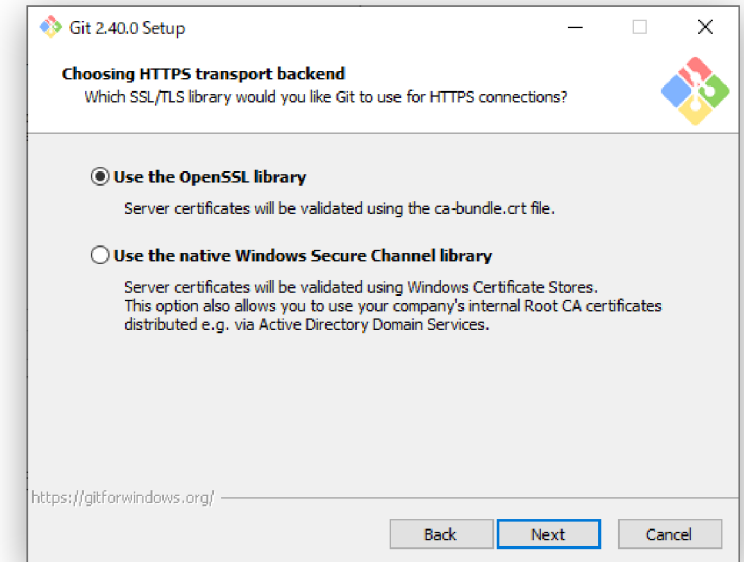
8. 使用するSSHバイナリの選択

- デフォルトの「Use bundled OpenSSH」にチェック



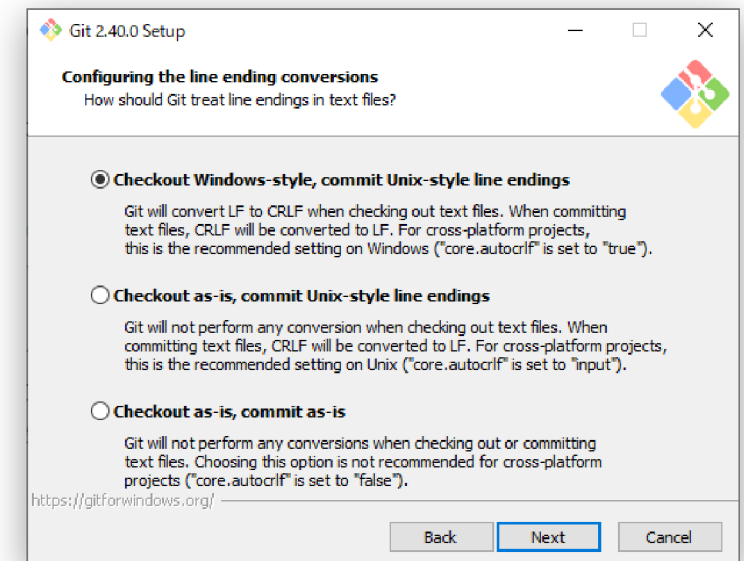
9. HTTPS接続時のライブラリ選択

- デフォルトの「Use the OpenSSL library」にチェック



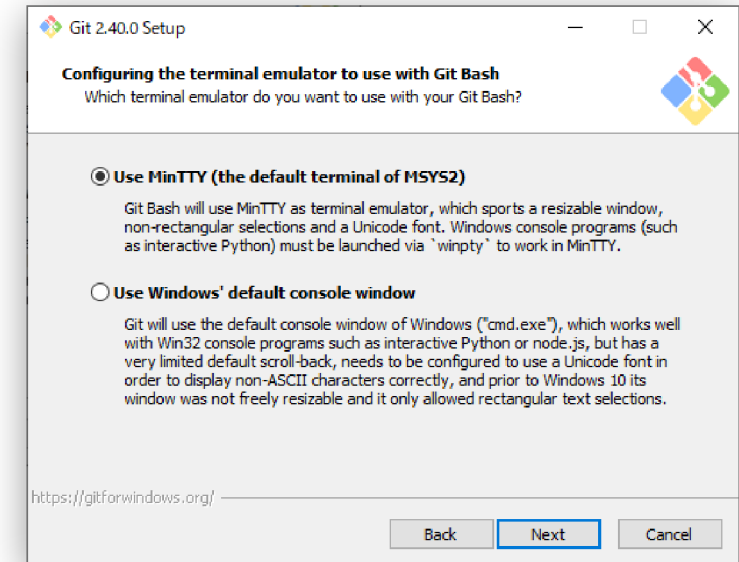
10. 改行コードの扱いの設定

- デフォルトの「Checkout Windows style,.....」にチェック
 - CRLF を使う Windows くんは忖度ほんま ~~ks~~



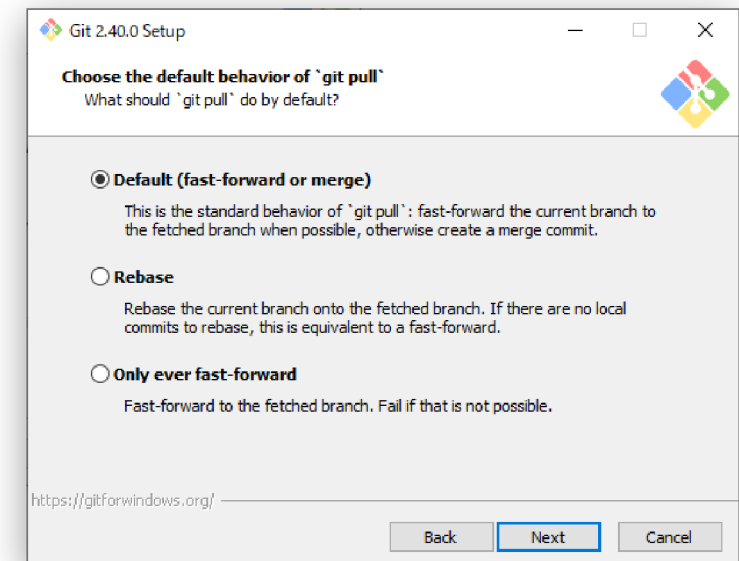
11. 使用するターミナルの設定

- デフォルトの「Use MinTTY」にチェック



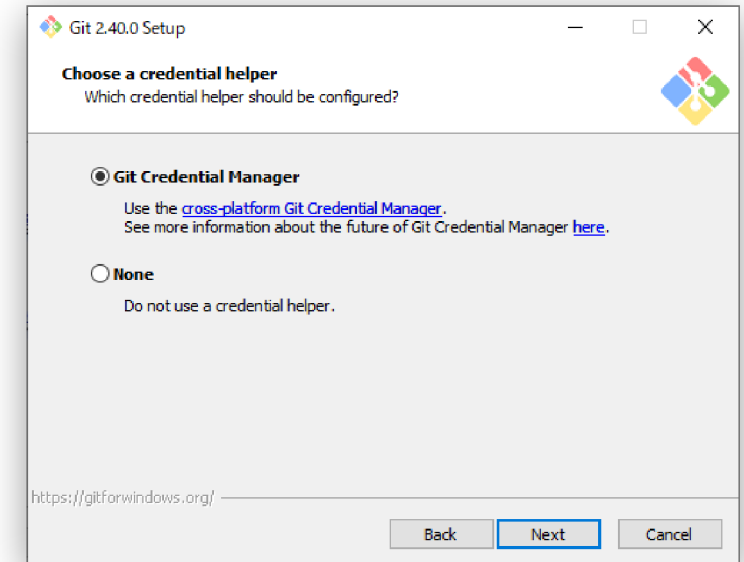
12. git pull の挙動の設定

- デフォルトの「Default」にチェック



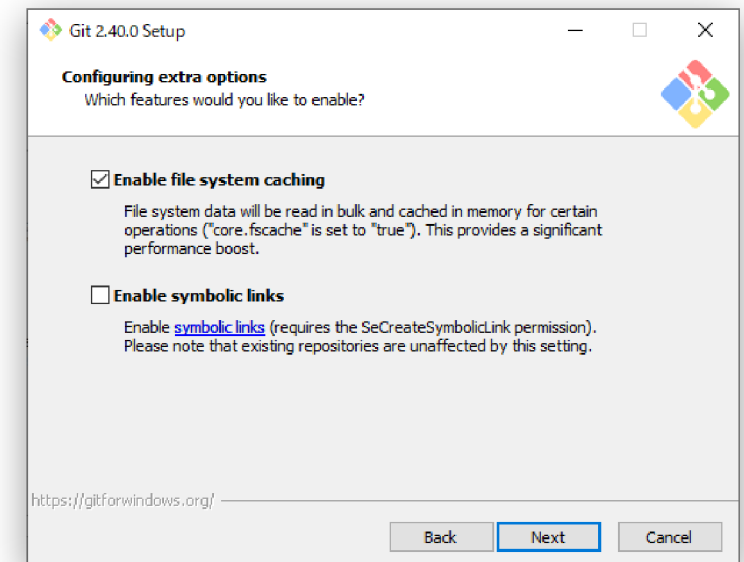
13. GCMの設定

- デフォルトの「Use Credential Manager」にチェック



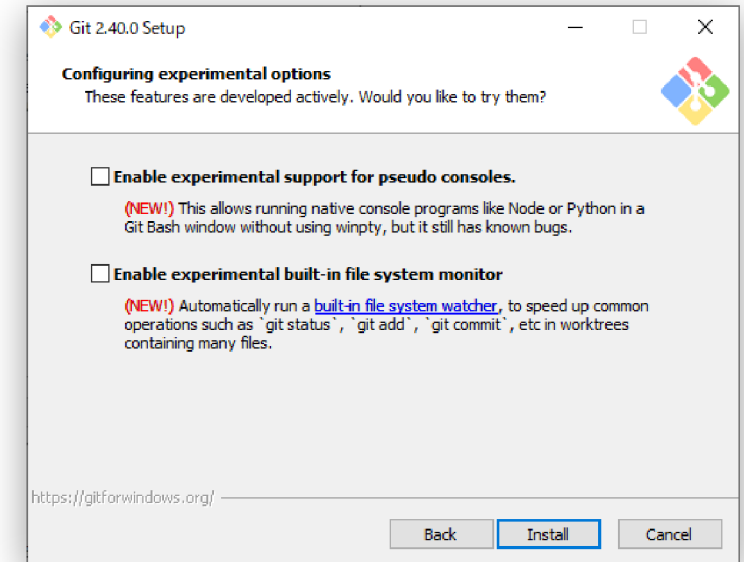
14. その他の設定

- デフォルトのまま「Enable file system caching」のみにチェック



15. 実験的機能の設定

- デフォルトのまま特にチェックしなくて良い



16. Done!

- WSL 上の Ubuntu に Git を導入
 - WSL の導入から説明
 - やり方がわかる人やすでに WSL を導入済みの人はスキップすれば良い
 - もちろんこだわりがあるのなら Ubuntu でなくても良い
 - ほぼコマンドライン上の操作のみで完結
 - 「Git for Win」に比べればむしろ簡潔かも（激ウマギャグ）
 - 以降 Windows 10 のバージョン 21H2 以降、または Windows 11 を対象
 - それ以前でもできる場合があるが手順が異なる（g g r）
 - バージョンは「スタートボタンを右クリック→『システム』」で確認可能



- WSL をインストール
 1. PowerShellを管理者として実行
 - スタートボタンの右クリックメニューから呼び出せる
 2. 下記コマンドを実行

```
wsl --install
```

3. システムの再起動を要求されるので従う

4. Ubuntu のターミナルに **username** と **password** を入力

- 好きに決めて良い
- Windows のものと一致させる必要はない

5. プリインストールされたパッケージを更新

- 下記コマンドを順に実行
 - **update** で更新があるか確認
 - **upgrade** で実際に更新

```
```bash
sudo apt update
sudo apt upgrade
```
```

- WSL をインストール (続き)

6. Git はプリインストールされているはずなので確認

```
git --version
```

`git version 2.34.1` のようにバージョンが出力されればOK

7. Ubuntu 上のファイルは、Windows のエクスプローラのアドレスに
`\\wsl$` と入力することで参照できる

- WSL をインストール (続き)

8. (オプション) 「build-essential」 パッケージを入れておくの良い
 - gcc や make などパッケージの構築に必須級のパッケージがまとめて入る

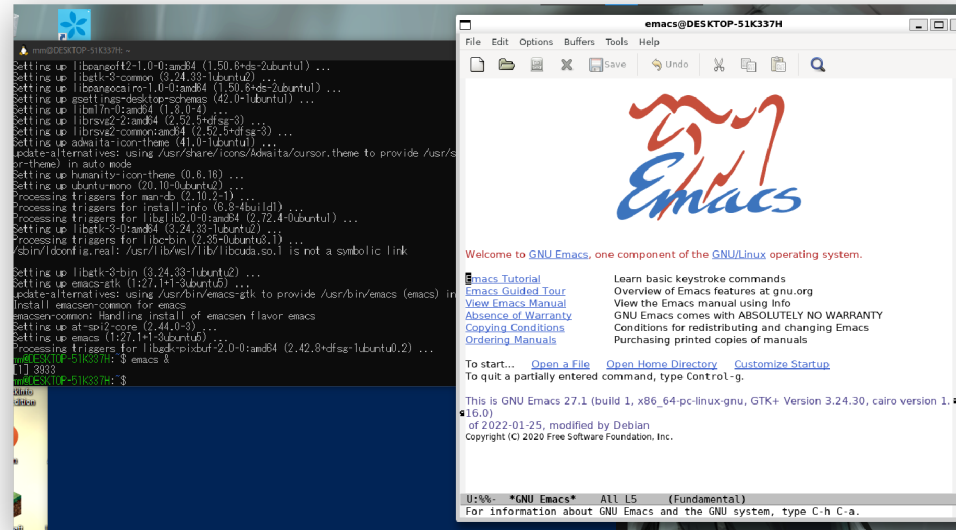
```
sudo apt install build-essential
```

9. (オプション) 義務

```
sudo apt install emacs
```

- WSL をインストール (続き)

10. (余談) この方法でインストールした WSL (ストア版) は最初から GUI が使える

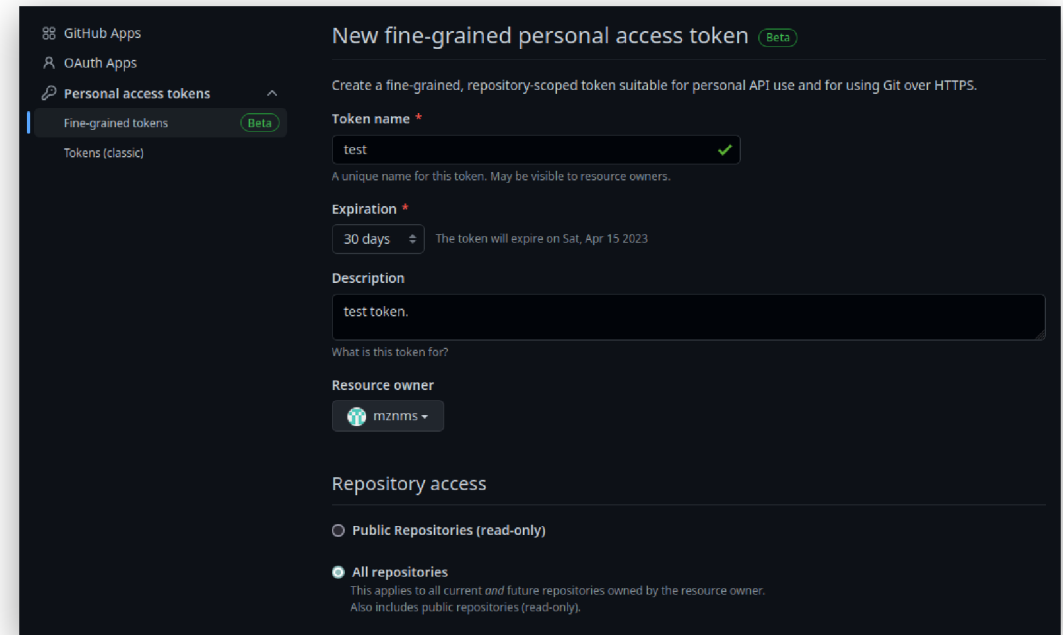



- 以前のバージョンは自分でXサーバをインストールする必要があったんじゃない (語り部の老人)

Git の設定

- GitHub へのアクセス権の設定
 - 手段は2つ
 - アクセストークンの利用
 - SSH 接続の利用
 - （過去にはアカウントのパスワードでも利用できたが2021年の8月に廃止）

1. GitHubのページから自分のアカウントの「Setting」へ移動
2. 「Developer settings」へ移動
3. 「Personal access tokens」の「Fine-grained personal tokens」へ移動
4. 「Generate new token」をクリック
5. 「Token name」と「Expiration」（有効期限）を適当に設定
6. 「Repository access」は「All repositories」にチェック



7. 「Permissions」内の「Contents」のアクセス権を「Read and write」に変更
 8. ページ下部の「Generate token」をクリック
 9. 英数字記号からなるトークンが表示される
-  注意
 - アクセストークンが表示されたページを閉じると、**二度と同じものを表示することはできない**
 - トークンのアクセス権の範囲はあとからでも変更可能
 - トークンは push 時などに（原則）毎回尋ねられることに注意

1. Windows ネイティブ環境の場合は Git Bash を、WSL 環境の場合はそのターミナルを開く
2. SSH鍵を作成する。以下のコマンドを実行

```
ssh-keygen -t ed25519 -C "GitHub"
```

- `-C` は SSH 鍵につけるコメントの指定
 - 無指定だと「**username@hostname**」になる
- `-t` は 使用する暗号化方式の指定
 - 楕円曲線暗号である「ed25519」の使用を推奨
 - 巷のチュートリアルでは（デフォルトの）「RSA 3072」や（デフォルトだった）「RSA 2048」がまだ多いかな？

3. 対話に答えながら鍵を作成

- 鍵の保存場所、パスフレーズの入力、パスフレーズの再入力、という順番で入力を求められるが、すべてデフォルトで良い (Enter 連打)

```
Generating public/private ed25519 key pair.  
Enter file in which to save the key (/home/( )/.ssh/id_ed25519):  
Enter passphrase (empty for no passphrase):  
Enter same passphrase again:  
Your identification has been saved in id_ed25519  
Your public key has been saved in id_ed25519.pub  
The key fingerprint is:  
SHA256:e9rsKl( ) ( )  
The key's randomart image is:  
+--[ED25519 256]--+  
| .. ( ) .. |  
+-----[SHA256]-----+
```

4. 鍵の生成を確認

- `~/.ssh/` に `id_ed25519` と `id_ed25519.pub` の2ファイルが生成されていることを確認
- `id_ed25519` は秘密鍵。絶対に他人に漏らさない
- `id_ed25519.pub` は公開鍵。これを GitHub に登録して認証する

5. 公開鍵を準備

- 以下のコマンドを実行

```
cat ~/.ssh/id_ed25519.pub | clip.exe
```

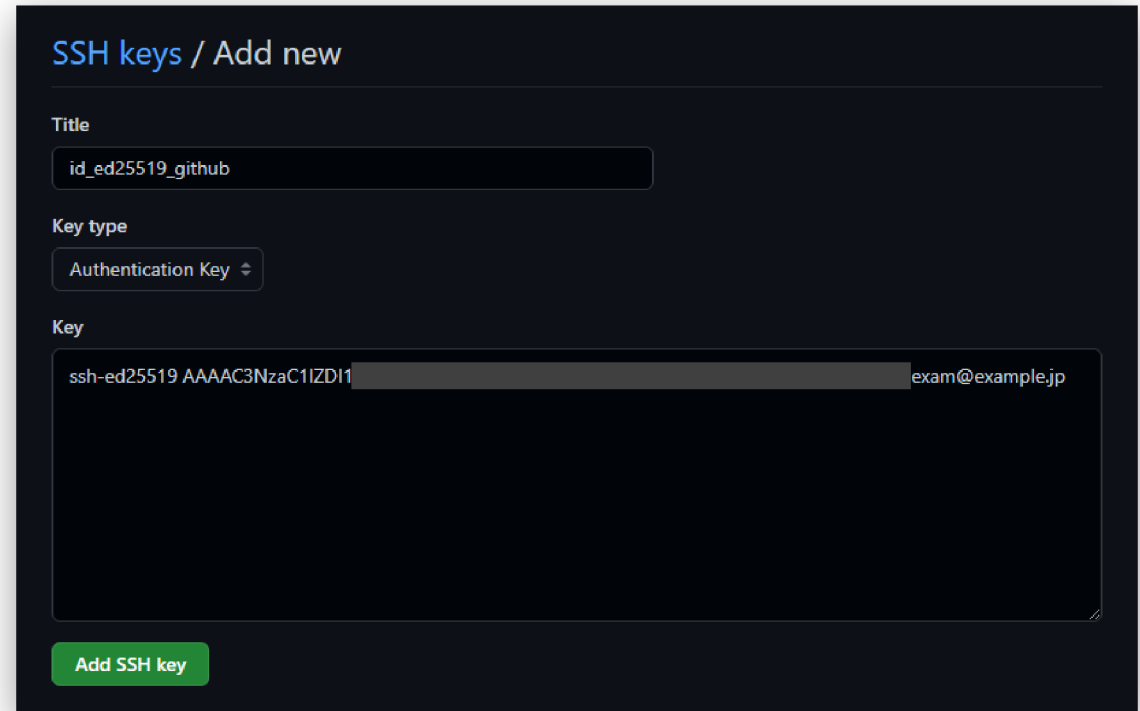
- 公開鍵の内容（文字列）がクリップボードに転送される
("Ctrl-V" で貼り付けられる状態)

6. 公開鍵を登録

- GitHub のページの右上にある自分のアイコンをクリック→「Settings」へ移動
- 「SSH and GPG keys」へ移動
- 緑色の「New SSH key」をクリック

6. 公開鍵を登録（続き）

- 「Title」には適当な文字列を入力
 - SSH 鍵を生成した PC を識別できる名前がおすすめ
- 「Key type」は Authentication Key
- 「Key」には先程クリップボードに仕込んだ公開鍵の内容を貼り付ける
- 「Add SSH key」をクリック



The screenshot shows a terminal window with a dark background. At the top, it says "SSH keys / Add new". Below this, there are three input fields: "Title" with the value "id_ed25519_github", "Key type" with a dropdown menu showing "Authentication Key", and "Key" with a large text area containing the public key "ssh-ed25519 AAAAC3NzaC1lZDI1 exam@example.jp". At the bottom right of the form is a green button labeled "Add SSH key".

7. ローカル環境のGitHub アカウントとの紐付け

- 以下の2つのコマンドを実行

```
git config --global user.name "GitHub username"  
git config --global user.email "GitHub"
```

- この内容は `~/.gitconfig` に保存される

8. 疎通確認

- 以下のコマンドを実行

```
ssh -T git@github.com
```

- もし以下のような警告が出たら（fingerprint を確かめて^[1]）

```
The authenticity of host 'github.com (IP ADDRESS)' can't be established.  
RSA key fingerprint is SHA256:nThbg6kXUpJWG17E1IG0CspRomTxdCARLviKw6E5SY8.  
Are you sure you want to continue connecting (yes/no)?
```

[1] ここで最新の fingerprint を確認できる: <https://docs.github.com/ja/authentication/keeping-your-account-and-data-secure/githubs-ssh-key-fingerprints>

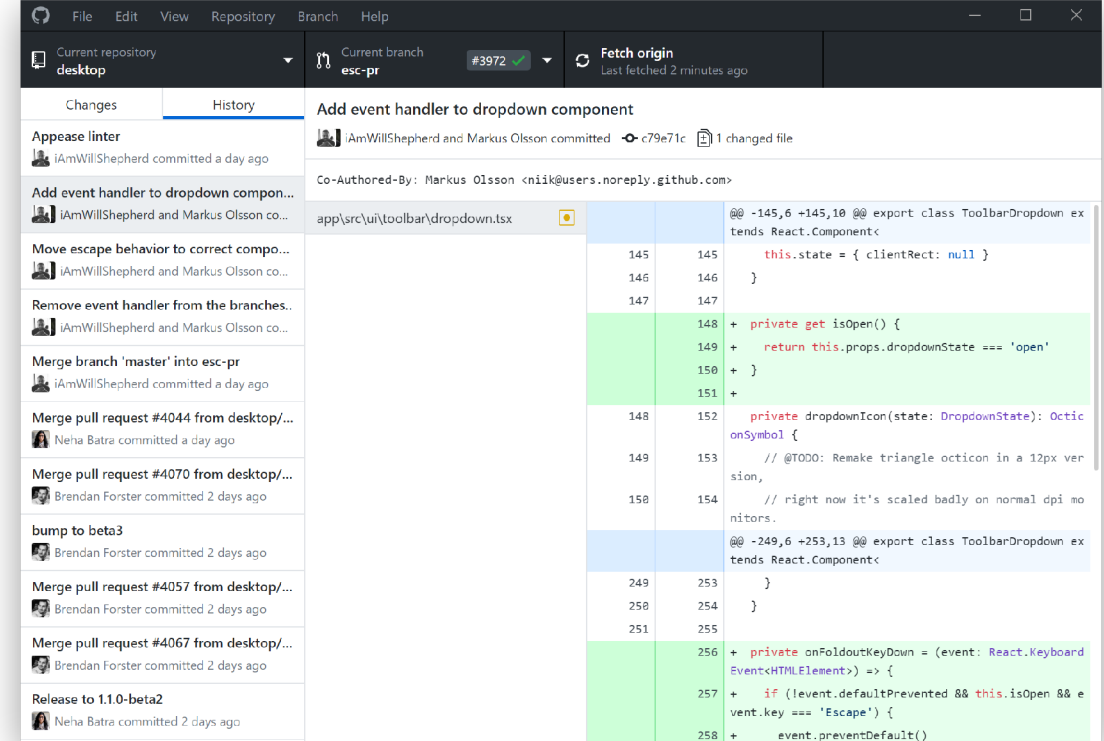
9. 成功メッセージが帰ってきたら成功

```
Hi (GitHub username)! You've successfully authenticated, but GitHub does not  
provide shell access.
```

Git の周辺ツール

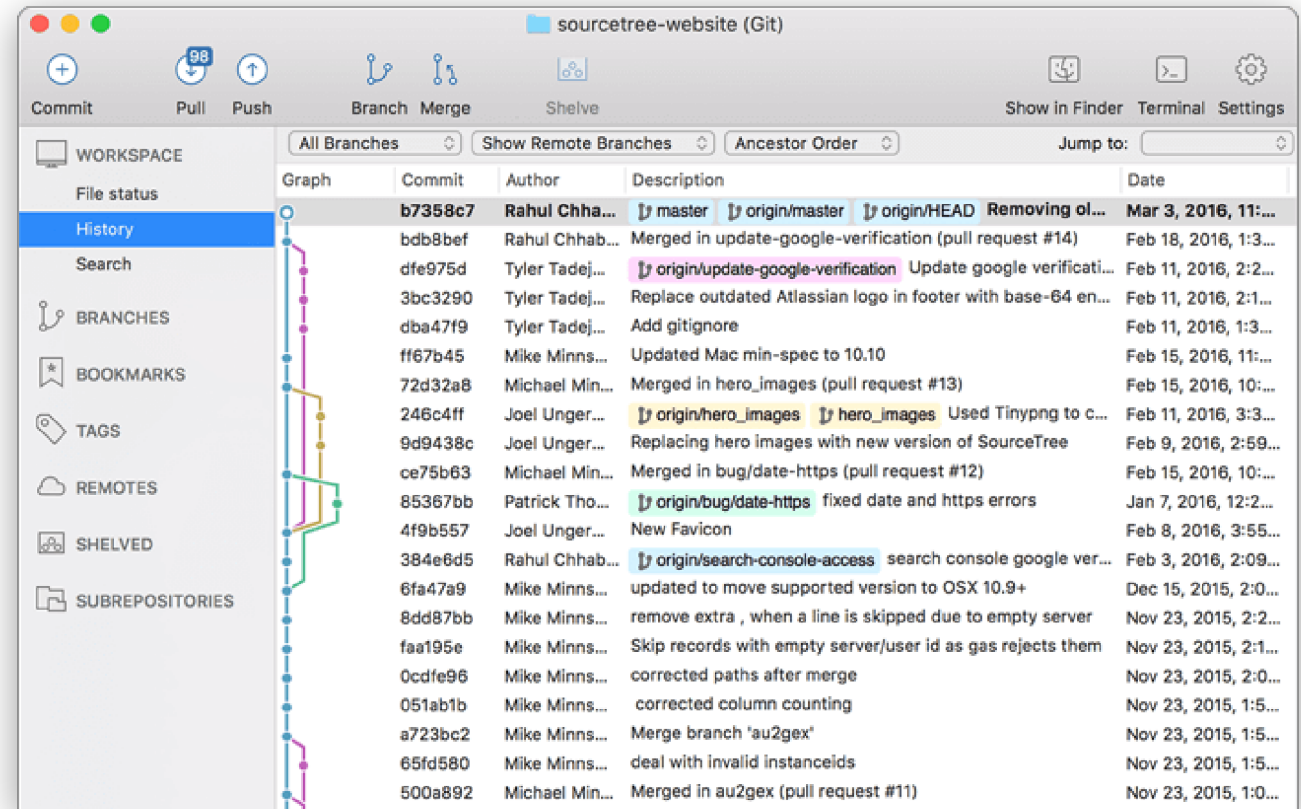
- その1 「GitHub Desktop」

- Windows と Macintosh で使用可能
- GitHub 公式謹製
- とってもグラフィカル、ほぼマウスで完結
- GitHub の独自機能の部分も手厚い対応
- <https://desktop.github.com>



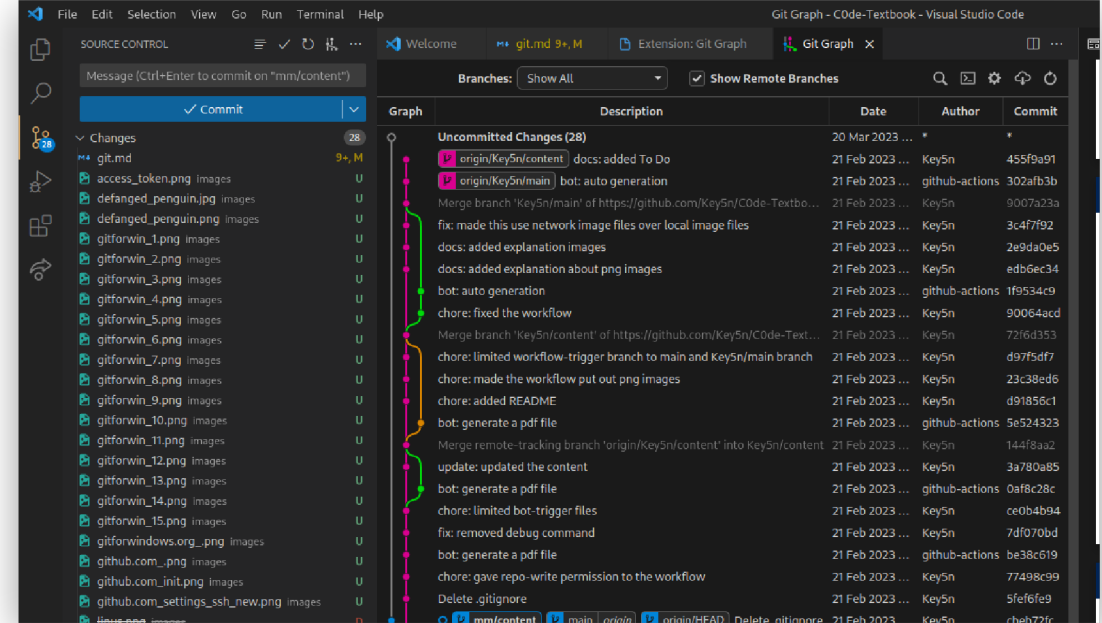
- その2 「Sourcetree」

- マルチプラットフォーム対応 (Linux も)
- GitHub に限らず対応
- 日本語化も可能
- Git GUI 操作の定番
- <https://www.sourcetreeapp.com>



- その3 「VSCode」

- エディタ自体は説明不要
- コミットやブランチ操作など基本的なことは素でできる
- 拡張機能でさらに強化可能
 - 「Git Lens」 - 差分の表示やコミット履歴の確認などが強化されるユーティリティツール
 - 「Git Graph」 - コミット履歴を見やすいツリー状に表示する拡張機能
 - 「Git History」 - コミットメッセージの検索やファイル単位・行単位の履歴確認を強化する拡張機能



● その4 「Magit」

- Emacs のパッケージ（拡張機能）
- 最初は扱いにくい（断言）
- 慣れるとあらゆる操作がコマンドラインを凌駕する速度になる
- 「ファイルの一部のみ unstage」や「コンフリクト解消」のような込み入った操作もすべてキーボードで完結

The screenshot displays the Magit interface within Emacs. The left pane shows the commit history for the 'main' branch, listing commits by hash, message, author, and date. The right pane shows a diff view for the file 'init.el', highlighting changes between the current commit and the previous one. The bottom pane shows the Magit command line with various options and arguments.

```

commit 83ae60c
Author: mznms <mznms@disroot.org>
AuthorDate: Mon Mar 13 01:49:13 2023 +0900
Commit: mznms <mznms@disroot.org>
CommitDate: Mon Mar 13 01:49:13 2023 +0900
Parent: 4979746 Update init.el
Contained: main

~Update init.el

~1 file changed, 6 insertions(+), 3 deletions(-)
~emacs.d/init.el | 9 +++++-
~modified emacs.d/init.el
@@ -238,7 +238,7 @@
 (leaf font-for-gui
  (defvar "Use Word & Adjust font size"
    - if (window-system)
    + if (display-graphic-p)
    :defvar jp-font-family
    :preface
  @@ -392,9 @@
    (bg-region
      (bg-completion "#5a5a5a")
      (fg-line-number-active "#00c0ff")
      - (bg-line-number-active unspecified))
      + (bg-line-number-active unspecified)
      + (bg-line-number-inactive unspecified)
      + (fringe unspecified))

U:%%- magit-revision: dotfiles L2 (Magit Rev Projectile)
U:%%- magit-log: dotfiles L3 (Magit Log Projectile)

Limit arguments
-- Limit to files (-->)
-I Ignore submodules (--ignore-submodules)
-D Ignore whitespace changes (--ignore-space-change)
-W Ignore all whitespace (--ignore-all-space)

Context arguments
-U Context lines (-U)
-W Show surrounding functions (--function-context)

Tune arguments
-A Diff algorithm (--diff-algorithm)
-R Detect renames (-R)
-C Detect copies (-C)
-x Disallow external diff drivers (--no-ext-diff)
-s Show stats (--stat)
-g Show signature (--show-signature)

Actions
d Own
r Diff range
p Diff paths
u Diff unstaged
s Diff staged
w Diff worktree
c Show commit
t Show stash

```